大学院映像研究科映像専攻

筆記試験(小論文)

2017年2月11日(土)　11：00～12：00

- 表紙をのぞく全ての用紙に受験番号、氏名を記入してください。
- 筆記用具、受験票、時計、本研究科が認めたもの以外の持込はできません。
- 問題および答案を、持ち帰ることはできません。
- 解答用紙は、全部で3枚ありますが全てを用いる必要はありません。

2017年度入学試験（2017年2月実施）

映像研究科入学試験解答用紙

専攻	課程	試験科目	時間	受験番号	氏　　名
映像専攻	修士課程	小論文	60分		

以下の「問題1」から「問題4」より1題を選択し、解答しなさい。

◆ 問題1：　「占い師」と「ピストル」という２つの被写体を取り込んだ映像作品を作ると仮定した場合、具体的なストーリー展開を交えてどのようなテーマが考えられるかを論じなさい。

◆ 問題2：　「紙コップ」と「台風」を題材にしたインタラクティブコンテンツを提案しなさい。提案においては、①作品タイトル、②コンテンツの目的、③システムの機能、④体験の内容を記載しなさい。必要に応じて図・表を示してもよい。

◆ 問題3：　Ａ国の大統領を選ぶ直接選挙における、年齢別（20歳以上）の投票率のデータが抽出されたとする。これをわかりやすく提示する映像としてどのようなものが可能か、データを映像化する意図や効果を明らかにしながら論じなさい。より分かりやすくするために、地域差や世代差、投票先など、データの詳細については自由に考えてよい。また、必要に応じて図・表を示してもよい。

◆ 問題4：　以下の文章を読み、記録映画の置かれている危機的状況の抱える問題を理解したうえで、この問題の解決のための具体的方法（技術的側面と政策的側面も踏まえながら）を論じなさい。

20 世紀を通じ、膨大な数の映像が同時代を記録してきた。日本でもこれまで数多くの記録映画が作られてきた。人々の生活や暮らしを描いた文化映画や教育映画から、日本の産業や科学技術の発展を描いたＰＲ映画にいたるまで、その分野は多岐にわたる。これらの記録映画（教育映画、文化映画、科学映画、産業映画、ＰＲ映画、ドキュメンタリー映画など様々なタイプの記録映像の総称）は、時代を映し出す鏡であり、歴史の記憶を生き生きと次世代に伝える貴重な文化遺産と言える。

しかしいま、これらのフィルム原版の劣化や消失、廃棄や散逸がはじまっている。多くの記録映画が危機的な状況にさらされているのだ。現在、放置され劣悪な環境下に置かれている記録映画のフィルム原版は、戦後に制作されたものに限っても、13 万本以上と推計される。その内訳は、制作会社４万本、企画会社１万本、自治体２万本、現像所５万本、個人等１万本にのぼる。

これらのフィルムのほとんどは、適正な保存環境とは言えない事務所内や常温倉庫に保管されており、すでに劣化がはじまっている。とりわけ戦後に使われるようになったアセテートベースのフィルムは、常温保存を続けると、アセテート部分が加水分解により化学変化を起こし、劣化する。いわゆる「ビネガーシンドローム」といわれる現象である。フィルムは強い酢酸臭を放ってワカメ状に反り返り、症状が進むと溶解して使用不能になる。こうなると、そこに記録された映像は二度と見ることができなくなる。

さらに問題なのは、各現像所の倉庫に、引き取り手のいなくなった原版、いわゆる「孤児フィルム（orphan film）」が多数存在していることだ。もともと現像所はプリントを作るために制作会社から原版を無料で預かるのを商習慣としていた。しかし原版を預けた制作会社やスポンサー企業が、倒産や解散をしてしまうと、原版が現像所に放置されたままになる。こうして本来の「親」をなくした数多くの「孤児フィルム」が現像所の倉庫に眠ったままになっているのだ。その数は全現像所合計で 52,100 本にのぼる。放っておけば、これらはいずれ廃棄されてしまうだろう。

こうしていま多くの記録映画が散逸・消失の危機にさらされている。一度失われてしまえば、二度と見ることができない貴重な記録が消え去ろうとしているのだ。もちろんこれは記録映画だけに限ったことではない。劇映画やアニメ、ＣＭのフィルム原版でもほぼ同様のことが起こっており、いずれの分野でも一刻も早い対策が求められている。しかし、とりわけ記録映画の場合、劇映画のように注目を浴びる機会も少なく、制作会社も小企業が多いため、対応は遅れがちである。

（丹羽美之・吉見俊哉編「岩波映画の1億フレーム」東京大学出版会2012年、1～3頁）一部改変

選択した問題の番号：